

# 四 半 期 報 告 書

(第73期第3四半期)

自 2019年10月1日

至 2019年12月31日

アトムクス株式会社

---

# 四 半 期 報 告 書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

頁

## 【表紙】

第一部 【企業情報】 .....	1
第1 【企業の概況】 .....	1
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	1
2 【事業の内容】 .....	1
第2 【事業の状況】 .....	2
1 【事業等のリスク】 .....	2
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	2
3 【経営上の重要な契約等】 .....	3
第3 【提出会社の状況】 .....	4
1 【株式等の状況】 .....	4
2 【役員の状況】 .....	5
第4 【経理の状況】 .....	6
1 【四半期連結財務諸表】 .....	7
2 【その他】 .....	14
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	15

四半期レビュー報告書

確認書

## 【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年2月13日

【四半期会計期間】 第73期第3四半期(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)

【会社名】 アトミクス株式会社

【英訳名】 ATOMIX CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 神保 敏和

【本店の所在の場所】 東京都板橋区舟渡三丁目9番6号

【電話番号】 03(3969)3111

【事務連絡者氏名】 取締役管理統括部長 富士田 学

【最寄りの連絡場所】 東京都板橋区舟渡三丁目9番6号

【電話番号】 03(3969)0471

【事務連絡者氏名】 取締役管理統括部長 富士田 学

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第72期 第3四半期 連結累計期間	第73期 第3四半期 連結累計期間	第72期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年12月31日	自 2019年4月1日 至 2019年12月31日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (千円)	7,245,000	7,285,639	10,321,076
経常利益 (千円)	176,801	261,304	301,178
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (千円)	101,107	157,257	184,244
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	△5,034	178,797	81,204
純資産額 (千円)	9,642,435	9,813,924	9,728,996
総資産額 (千円)	13,557,113	13,870,614	14,211,580
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	16.16	25.12	29.46
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	71.1	70.8	68.5

回次	第72期 第3四半期 連結会計期間	第73期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年10月1日 至 2018年12月31日	自 2019年10月1日 至 2019年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	10.13	8.63

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成していますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 売上高には、消費税等は含まれていません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社、以下同じ)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものです。

#### (1) 経営成績

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、引き続き雇用・所得環境の改善が進み、緩やかな回復基調で推移しました。しかし、相次ぎ発生した台風・集中豪雨による影響や消費税増税による個人消費の低迷のほか、物流コストの上昇、米中の貿易摩擦の激化など、依然として経営環境は厳しい状況が続いています。

このような状況のもと、当社グループは第12次3ヶ年計画の最終年度である当期において、その目標を達成すべく、環境対応製品の拡販、顧客視点に立った製品開発、原材料をはじめとする生産コストの削減、新たなマーケティング活動を行うとともに、固定観念を打破した新たな需要を生むべく努めてきました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高72億85百万円（前年同期72億45百万円）、営業利益2億40百万円（同 1億59百万円）、経常利益2億61百万円（同 1億76百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益1億57百万円（同 1億1百万円）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりです。

#### <塗料販売事業>

道路用塗料は、台風や集中豪雨等の天候不順による影響もあり全体的に伸び悩んだなか、カラー舗装材、インフラ補修関連製品の売上が伸び前年を上回りました。建築用・床用塗料は、ドローンを使用した屋根の診断システム（アトムサーベイシステム）等により営業活動を進めていますが、顧客である製造業等の設備投資の動きが依然として低迷しているため前年を下回りました。家庭用塗料は、天候不順や消費税増税による個人消費の低迷が続く主要なホームセンターでの販売が伸びず前年を下回りました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の塗料販売事業の売上高は前年同期と比べて1億62百万円増加し、69億1百万円（前年同期比2.4%増）となりました。

#### <施工事業>

官公庁等による交通安全関連の工事発注は順調に推移していますが、専任技術者等の人手不足により工事受注が厳しい状況となっています。当第3四半期において、完了した工事が少なかったこと、企業の設備投資の低迷により床材工事の受注が減少したことにより前年を下回りました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の施工事業の売上高は前年同期と比べて1億21百万円減少し3億84百万円（前年同期比24.1%減）となりました。

## (2) 財政状態

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて3億40百万円減少し、138億70百万円となりました。これは主に、電子記録債権で1億1百万円、仕掛品で2億15百万円増加したものの、受取手形及び売掛金で6億75百万円減少したためです。

当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べて4億25百万円減少し、40億56百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金で1億56百万円、電子記録債務で61百万円、未払法人税等で44百万円、賞与引当金で66百万円、長期借入金で93百万円減少したためです。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べて84百万円増加し、98億13百万円となりました。これは主に配当金で96百万円減少したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益で1億57百万円、その他有価証券評価差額金で20百万円増加したためです。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

## (4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は1億51百万円です。なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

## 3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,000,000
計	30,000,000

###### ② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	7,242,000	7,242,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	7,242,000	7,242,000	—	—

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### ① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### ② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年10月1日 ～2019年12月31日	—	7,242,000	—	1,040,000	—	680,400

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2019年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしています。

① 【発行済株式】

2019年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 812,600	—	単元株式数 100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,428,700	64,287	同上
単元未満株式	普通株式 700	—	—
発行済株式総数	7,242,000	—	—
総株主の議決権	—	64,287	—

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、日本マスタートラスト信託銀行株式会社（株式付与ESOP信託口）が所有する当社株式 171,800株（議決権1,718個）が含まれています。
2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式17株が含まれています。

② 【自己株式等】

2019年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
アトムクス株式会社	東京都板橋区舟渡三丁目9番6号	812,600	—	812,600	11.22
計	—	812,600	—	812,600	11.22

(注) 日本マスタートラスト信託銀行株式会社（株式付与ESOP信託口）が保有している当社株式171,800株は、上記自己株式には含まれていません。

2 【役員 の 状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しています。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人保森会計事務所による四半期レビューを受けています。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,726,252	2,736,839
受取手形及び売掛金	※2 3,476,378	※2 2,800,486
電子記録債権	※2 557,908	※2 658,915
商品及び製品	1,032,110	996,054
仕掛品	193,146	409,009
原材料及び貯蔵品	499,726	541,646
その他	53,822	53,803
貸倒引当金	△31,176	△27,245
流動資産合計	8,508,169	8,169,509
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,110,072	1,153,263
土地	2,930,024	2,930,024
その他（純額）	440,503	404,787
有形固定資産合計	4,480,600	4,488,075
無形固定資産	204,614	225,438
投資その他の資産	※1 1,018,196	※1 987,590
固定資産合計	5,703,410	5,701,104
資産合計	14,211,580	13,870,614
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※2 1,692,232	※2 1,535,551
電子記録債務	※2 936,588	※2 875,163
短期借入金	245,820	229,555
未払法人税等	79,092	34,559
賞与引当金	108,344	41,689
クレーム費用引当金	—	2,240
その他	※2 578,939	※2 592,382
流動負債合計	3,641,017	3,311,141
固定負債		
長期借入金	310,280	217,180
役員退職慰労引当金	83,010	71,641
株式給付引当金	54,121	62,748
退職給付に係る負債	280,157	283,345
資産除去債務	42,198	42,542
その他	71,799	68,090
固定負債合計	841,565	745,548
負債合計	4,482,583	4,056,690

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,040,000	1,040,000
資本剰余金	692,570	692,570
利益剰余金	8,165,814	8,226,630
自己株式	△399,816	△397,245
株主資本合計	9,498,567	9,561,954
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	233,970	254,099
退職給付に係る調整累計額	△3,541	△2,129
その他の包括利益累計額合計	230,428	251,969
純資産合計	9,728,996	9,813,924
負債純資産合計	14,211,580	13,870,614

## (2) 【四半期連結損益及び包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
<b>売上高</b>		
商品及び製品売上高	6,738,862	6,901,333
工事売上高	506,138	384,306
売上高合計	7,245,000	7,285,639
<b>売上原価</b>		
商品及び製品売上原価	4,676,263	4,736,757
工事売上原価	395,799	282,650
売上原価合計	5,072,062	5,019,407
<b>売上総利益</b>	2,172,938	2,266,231
販売費及び一般管理費	2,012,951	2,025,553
<b>営業利益</b>	159,986	240,678
<b>営業外収益</b>		
受取利息	63	30
受取配当金	9,880	10,755
為替差益	1,648	682
受取保険金	3,027	6,608
その他	7,400	6,421
営業外収益合計	22,021	24,498
<b>営業外費用</b>		
支払利息	5,206	3,872
営業外費用合計	5,206	3,872
<b>経常利益</b>	176,801	261,304
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	449	49
特別利益合計	449	49
<b>特別損失</b>		
固定資産除却損	447	730
リース解約損	—	827
特別損失合計	447	1,558
税金等調整前四半期純利益	176,803	259,796
法人税、住民税及び事業税	39,717	55,511
法人税等調整額	35,978	47,028
法人税等合計	75,696	102,539
四半期純利益	101,107	157,257
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	101,107	157,257
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△107,268	20,128
退職給付に係る調整額	1,126	1,411
その他の包括利益合計	△106,141	21,540
四半期包括利益	△5,034	178,797
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△5,034	178,797
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

【注記事項】

(会計方針の変更等)

当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
(有価証券の評価基準及び評価方法) その他有価証券の評価方法については、従来、総平均法によっていましたが、第1四半期連結会計期間より移動平均法に変更しています。この変更は、有価証券売却による売却損益の把握をより迅速かつ適切に行うことを目的としたものです。 なお、当該会計方針の変更に伴い遡及適用した場合に過年度の連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
(税金費用の計算) 連結子会社の税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純損益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しています。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
投資その他の資産	0	0

※2 四半期連結会計期間末日満期手形及び電子記録債権債務の会計処理については、手形交換日及び振込期日をもって決済処理をしています。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形及び電子記録債権債務が、四半期連結会計期間末残高に含まれています。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
受取手形	125,368	116,253
電子記録債権	23,424	38,921
支払手形	75,998	78,886
電子記録債務	63,478	71,641
その他(設備関係)	24,155	6,002

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む)は、次のとおりです。

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
減価償却費	241,191	246,855

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	96,440	15	2018年3月31日	2018年6月29日	利益剰余金

(注) 2018年6月28日定時株主総会による配当金の総額には、信託が保有する自社の株式に対する配当金2,664千円が含まれています。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	96,440	15	2019年3月31日	2019年6月28日	利益剰余金

(注) 2019年6月27日定時株主総会による配当金の総額には、信託が保有する自社の株式に対する配当金2,601千円が含まれています。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	塗料販売事業	施工事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	6,738,862	506,138	7,245,000	7,245,000
セグメント間の内部売上高 又は振替高	27,923	—	27,923	27,923
計	6,766,785	506,138	7,272,924	7,272,924
セグメント利益	327,589	79,750	407,340	407,340

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	407,340
全社費用(注)	△247,353
四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益	159,986

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	塗料販売事業	施工事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	6,901,333	384,306	7,285,639	7,285,639
セグメント間の内部売上高 又は振替高	19,629	—	19,629	19,629
計	6,920,962	384,306	7,305,268	7,305,268
セグメント利益	432,101	69,347	501,449	501,449

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	501,449
全社費用(注)	△260,771
四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益	240,678

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりです。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額(円)	16.16	25.12
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	101,107	157,257
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	101,107	157,257
普通株式の期中平均株式数(千株)	6,253	6,257

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。  
2. 株主資本において自己株式として計上されている信託に残存する自社の株式は、1株当たり四半期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めています。  
なお、1株当たり四半期純利益金額の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は、前第3四半期連結累計期間が176,261株、当第3四半期連結累計期間が171,488株です。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月12日

アトミクス株式会社  
取締役会 御中

監査法人 保森会計事務所

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 横 山 博 印

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 山 崎 貴 史 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアトミクス株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アトミクス株式会社及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しています。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

**【表紙】**

<b>【提出書類】</b>	確認書
<b>【根拠条文】</b>	金融商品取引法第24条の4の8第1項
<b>【提出先】</b>	関東財務局長
<b>【提出日】</b>	2020年2月13日
<b>【会社名】</b>	アトムクス株式会社
<b>【英訳名】</b>	ATOMIX CO., LTD.
<b>【代表者の役職氏名】</b>	代表取締役社長 神保 敏和
<b>【最高財務責任者の役職氏名】</b>	該当事項はありません。
<b>【本店の所在の場所】</b>	東京都板橋区舟渡三丁目9番6号
<b>【縦覧に供する場所】</b>	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 神保 敏和は、当社の第73期第3四半期（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。